

国の文化審議会が新たに指定するよう答申した有形文化財(美術工芸品)について

令和2年3月19日(木)に開催された国の文化審議会において、県内の美術工芸品2件(絵画の部1件、歴史資料の部1件)を重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申されました。

記

- 【絵画の部】(1件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

けんぼんちやくしよくてんだいさん そ しぞう
絹本著色天台三祖師像 1幅 宗教法人 こんだいいん 金台院(大津市)

- 【歴史資料の部】(1件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

かわち やかしょうかんけいしりょう
河内屋可正関係資料 9点 個人(守山市)

資料 1

<絵画の部>

けんぼんちやくしよくてんだいさん そ し ぞう
絹本著色天台三祖師像 1幅

所 有 者 宗教法人金台院（大津市坂本6-1-7）
※大津市歴史博物館に寄託

法 量 縦 151.5 センチメートル 横 79.0 センチメートル

時 代 鎌倉時代

説 明 延暦寺西塔で護持されてきた大画面の祖師図である。中国の南北朝時代末から隋時代の初めに天台山で天台教学を大成した天台大師智顛（538～597）、唐時代に中国へ渡り、天台山で修行してわが国の天台宗の開祖となった伝教大師最澄（766～822）、唐時代末の五台山で修行して天台宗山門派の祖となった慈覚大師円仁（794～864）の3人の祖師が、それぞれ山中において座禅する様を描く。

国籍や時代の異なる3人の祖師を山岳景観中に配置する構図はきわめて珍しく、本図の他に中世にさかのぼる類例は知られていない。本図の作者は不明ながらも、丁寧な筆致と濃厚な彩色により、複雑な構成の大画面をまとめ上げた絵師の手腕は高く評価される。引き締まった描線や端正さを保った自然景観の描写から、制作は鎌倉時代末期と考えられる。



資料 2

<歴史資料の部>

かわち やかしょうかんけいしりょう 河内屋可正関係資料 9点

所有者 個人（守山市）

時代 江戸時代

説明 ^{かわち やかしょう つばい ごへえ}河内屋可正（壺井五兵衛、1636～1713）は、^{だいがつか}河内国石川郡大ヶ塚村（現在の大阪府南河内郡河南町）の上層農民で、農業と酒造業を営むかたわら、若いころから読書に励み、俳諧や能をたしなんだ。

本資料は、可正が著した記録を中心とした史料であり、「河内屋可正旧記」5冊、「可正雑記」1冊、「河内屋年代記」2冊、「壺井家系図」1巻の計9点から構成される。

これらの記録は、江戸時代前期から中期にかけて、上方地域の村落における上層農民の生活意識、文化受容のありようを極めて具体的に伝える。同時期に出版文化が隆盛するなかで、読書によって教養を高め自身の思想を形成する過程を示す稀有な記録で、同時代の文化史、思想史などの研究をおこなううえで学術的価値が高い。

